

令和3年度 学校評価(総括評価表)

徳島県立名西高等学校定時制課程

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価指標による達成度	学校関係者の意見		
基本的生活習慣の確立を図る生徒指導を推進するとともに、勤労を奨励し、学業との両立を図り、社会で自立する能力や態度を育成する。	(全校レベル) I) 個に応じた支援を実践し、生活習慣の確立と基礎学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ① キャリア教育を推進する中で、生徒の進路意識を明確にし、学習能力・態度を高める。[進路課・生徒課] ② わかる授業を実践するとともに、個々の生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。[教務課・進路課・各教科] ③ 「総合的な学習(探究)の時間」を活用する。[教務課・進路課]	評価指標 I) 授業出席率 90 %以上 遅刻する生徒の割合 5 %以下。	評価指標による達成度 I) 授業出席率 93.1 % 遅刻する生徒の割合 2.9 %	①定時制の生徒は就職を希望している者が多い。外部講師を招いての就職に関する講演は、生徒たちの就労意識の向上につながり、学校生活にも良い影響を与えるので、次年度も是非お願いしたい。 ②資格を取得することは生徒たちの自信につながり、自尊感情の育成にもつながる。何よりもそれに向けた様々な取組が生徒たちの「生きる力」の向上にも結びつくのではないかと。次年度も奨励してもらいたい。 ③「総合的な学習(探究)の時間」は生徒の主体的な探究活動をどのようかにかかっている。非常に手間がかかり、大変だとは思いますがきめ細やかな指導をお願いしたい。	○出席率、遅刻数は昨年度と同程度である。今後も個々に対応した体調管理について指導支援していく。 ①今後も講演会やワークショップ形式の授業を開き、様々な立場の方の話を聞いたり、体験型の行事を通じて、自己実現に関する目的意識や望ましい勤労観の醸成を勧めていけるよう指導を継続する。また、次年度も生徒の社会性向上を図るため、系統的なキャリア教育行事を推進するとともに、基礎学力の向上や出席の奨励等をはじめ勤労観の育成に努める。 ②基礎学力定着のために、個々の状況に合わせてテストの難易度を設定する必要がある。教員相互の授業参観は次年度も継続し、活発な意見交換を行い、生徒理解と授業改善に役立てる。 ③生徒の実態や特性に配慮しながら、自己の在り方や生き方を考え、課題の発見と解決に向けて取り組めるよう、各教科・校務分掌との連携を図りながら学習を進めていく。	
		①-1 進路に関する内容のホームルーム活動の実施回数。 年間 5回以上	①-1 進路に関するホームルーム活動の実施回数 1年7回, 2年8回, 3年6回, 4年9回			総合評価 (評定) A (所見) 授業出席率は 90 %を超え、生徒は楽しさを持って登校することが当たり前となりつつある。アルバイト就業率や授業評価における満足度等の評価指標は、昨年度と同程度で非常に高い。ただ、日々の授業に対する理解度は十分とは言えず、「学び直し」の内容から高校レベルの内容へ移る際にさらに工夫が必要である。少人数であることの利点を生かし、生徒とコミュニケーションをとりながら、充実感や達成感を持たせることができる授業を実践することで、理解度を高めていく。また、タブレット端末の積極的な活用を図り、多様な生徒達に、公正に個別最適化された学びを推進する。
		①-2 就職における関連機関等と連携し、進路講演会等を実施。 年間 2回以上	①-2 地元の起業家を講師に進路講演会、「多様性充実事業」でコミュニケーションスキル向上やキャリア教育的内容を含むワークショップを年間 3回実施することができた。			
		①-3 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合。 60%以上	①-3 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合。 52%			
		②-1 基礎学力を定着させるための確認テスト(英国数)を実施する。 年間 3回以上	②-1 授業中に実施。英語検定、漢字検定、算数検定等の問題で 3回以上実施。			
		②-2 学力検討会実施回数。 年間 5回以上	②-2 学力検討会の実施回数 年間 5回 1学期 2回, 2学期 2回, 3学期 1回			
		②-3 教員相互の授業参観。 各学期に 1回以上	②-3 各学期に 1回, 1週間の授業参観を実施。			
		②-4 授業評価による生徒の満足度・理解度の向上。満足度 90 %以上, 理解度 80 %以上	②-4 授業評価による生徒の満足度・理解度 満足度 88.6 %, 理解度 82.5 %			
		③-1 総合的な学習(探究)の時間における「学びの場」満足度の向上。 90 %以上	③-1 満足度は 90.9 %であった。			
		活動計画 I) 生徒の実態について共通理解を図り、個に応じた支援を検討し、実践する。	活動計画の実施状況 I) それぞれの生徒の状況に応じて全教員で支援策を検討し、実践した。			
①-1 進路に関する内容を取り入れたホームルーム活動を実施し、生徒の学習意欲を高めるとともに社会性を身につけさせる。	①-1 ホームルーム活動を利用して、進路実現に向けた取組を実施し、職業人として求められる資質について話すことができた。					
①-2 生徒の進路実現に向けて、進路講演会等のキャリア教育行事を系統的に実施する。	①-2 コロナ禍にありキャリア教育行事の実施回数は例年より減少したが、進路講演会以外にも「多様性充実事業」でキャリア教育内容の行事を実施することができた。					
①-3 アルバイト等校外での活動を推奨し、社会性を身につけさせる。	①-3 アルバイト等校外での活動を推奨した結果、52 %の生徒がアルバイトに従事している。					
②-1 英国数の授業で中学校の内容も取り扱い、基礎学力の向上を目指す。	②-1 各教科とも中学校及び小学校の内容からも確認を行った。					
②-2 学力検討会を実施し、生徒の学力について	②-2 学力向上に向けた検討会を年間を通					

		て共通理解を図り、支援の方策を探る。	して実施し、生徒の学力や意識調査の結果について共通理解を図るとともに、学習支援について相談することができた。			
		②-3 教員相互に授業参観を行い、他教科における生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。	②-3 他教科での生徒の取組を踏まえ、授業の改善に役立てた。			
		②-4 授業評価の結果を分析し、授業方法の改善やわかる授業の実践に役立てる。	②-4 学力向上アンケートや学校生活等の意識調査の結果を分析し、授業改善や生徒理解をすすめることができた。			
		③-1 総合的な学習(探究)の時間において、「学びの場」を設け、自ら学び、知る喜びを感じさせるとともに、基礎学力を高める。また、社会で自立する能力や態度を培う。	③-1 「学びの場」では協働的な活動の中で、積極的に学ぶことにより、基礎学力を高め、コミュニケーション能力を培った。			
学校生活を通して自他を大切に する心や態度を育成するとともに、 主権者意識や防災意識の高揚を図る。	(全校レベル) I) 生徒の人間関係構築力や社会性の育成を図り、自他を守る社会規範を身に付けさせる。 (下位組織レベル) ① 異年齢間の交流や社会体験などを多く経験させる。 [各学年・特活課] ② 校外での活動を推奨し、地域との繋がりを感じさせる。 [各学年・特活課] ③ 個に応じた指導を実践する。 [各学年・特別支援コーディネーター] ④ いじめを防止する。 [各学年・生徒課] ⑤ さまざまな人権問題に対する意識を向上させる。 [各学年・人権教育課] ⑥ 防災教育を充実させる。 [各学年・環境教育課] ⑦ 主権者意識を高める教育を推進する。 [公民科・各教科]	評価指標 I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。 90%以上 ①-1 学校行事への満足度。 80%以上 ①-2 エシカルクラブ活動に対する生徒の満足度・理解度の向上。 80%以上 ②-1 地域に貢献するボランティア活動の実施。 年間2回以上 ③-1 生徒の状況について共通理解を図る機会の設定。 年間6回以上 ④-1 いじめを許さない体制と雰囲気作り。 いじめ0件 ⑤-1 人権問題に対する意識が向上したと感じる生徒の割合。 80%以上 ⑥-1 防災訓練・避難訓練の実施。 年間3回以上 ⑦-1 政治や選挙、政治的事象への関心が高まったと感じる生徒の割合。 65%以上 活動計画 I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。 ①-1 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。 ①-2 挨拶を励行し、礼法指導を行う。	評価指標による達成度 I) 4月に比べ、人間関係構築力や社会性が向上したと考える生徒の割合。85.2% ①-1 学校行事への満足度。 85.2% ①-2 エシカルクラブ活動に対する生徒の満足度・理解度の向上。 満足度82.2%、理解度94.1% ②-1 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、年1回しか行うことができなかった。 ③-1 毎日の連絡会や、職員会議などを通して日常的に情報交換を行い、共通理解を図った。 ④-1 教員間の情報交換、連携を密に図り、指導と雰囲気作りに努めた。 いじめ発件数0件 ⑤-1 人権問題に関する生徒アンケートでは、81.5%の生徒が人権意識向上したと答えている。 ⑥-1 地震・火災を想定した避難訓練を各学期1回ずつ実施した。 ⑦-1 政治や選挙、政治的事象への関心が高まったと感じる生徒の割合。 81.5% 活動計画の実施状況 I) 普段から機会を捉えて生徒の特性や発達段階などについて共通理解を図り、各場面で個に応じた指導を実践することができた。 ①-1 スポーツ大会や遠足、予餞会での動画鑑賞等、学年を超えて交流を図る魅力的な行事を実施できた。 ①-2 登校指導を行い、挨拶を励行すること	総合評価 (評定) A (所見) 人間関係構築力や社会性の向上を実感した生徒の割合は昨年度より5%減少した。本校生の実態を踏まえると、日々の授業は大切であるが、「魅力ある」学校行事の企画・運営も重要である。外部講師招聘授業や学年を越えた生徒との交流など、普段の授業とは違う活躍の場が与えられることによって、生徒は様々な経験を積み、さらなる成長が見込まれる。また各行事終了後にはアンケートをとっている。理解度や感想を記入すること	①学校行事は生徒にとって高校生活の思い出になるものであり、登校するモチベーションにもなる。生徒の意見も取り入れながらさらに魅力あるものにしていただきたい。 ②地域に愛される学校づくりの一環としても大切であるので、できるだけ多くの機会を作っていたきたい。 ③いろいろな事情を抱えて入学している生徒が多くいるので良い相談相手になっていただきたい。 ④少人数ならではのきめ細やかなご指導をお願いしたい。 ⑤人権意識が向上した生徒の割合が高いので次年度も継続して欲しい。 ⑥異常気象や地震など予測不能な災害に向け	○生徒の人間関係構築力や社会性の向上、さらに個々の自尊感情の向上もまた新たな目標として、教員全体が共通理解を持って積極的に取り組む。 ①生徒の自己実現の達成に役立つ学校行事になるように内容の改善に取り組む。また、挨拶を励行し、学校行事においても礼法指導を徹底する。 ②感染症の終息が見込めば、生徒会活動として学期に1度地域の清掃課題を計画する。実施ごとにルートを変更したり、写真を撮って前回の様子と比較する等して生徒が地域への関心を高められるような工夫を取り入れる。 ③日々の関わりから生徒の情報収集を行い、必要に応じて共通理解を図る。研修等で学んだ情報は積極的に周知するように努め、指導に活かす。 ④ZOOM等を活用し、オン

		とができた。また、行事や式典の際には会の開始前に礼法の全体指導を行うことができた。	で、振り返りをさせている。アンケート調査からは、学校行事に対する生徒の満足度は毎年変わらず高い。	て備えることは大変難しいものではあるが、できるだけ「想定内」になるよう準備をして欲しい。	ラインで遠隔地にいながらも最先端の技術や知識に触れられるような魅力的な行事を計画する。
	②-1 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。	②-1 生徒会活動として9月に地域清掃活動を実施した。また、学期に数回大掃除を行い、奉仕の精神を身に付けさせることができた。		⑦選挙年齢が18歳になり、在校生の多くが選挙権を持つようになっている。選挙のやり方というよりも候補者を選ぶ際の考え方を学ばせて欲しい。	⑤生徒が安心して学校生活を送ることができる指導体制と雰囲気作りに取り組む。
	③-1 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒について共通理解を図る機会を設け、個に応じた指導が実践できるようにする。	③-1 機会あるごとに共通理解を図る機会を設けた。また、保健調査等からの情報を提供するとともに、職員会議を通して意見交換を行い、指導に活かした。			⑥新型コロナウイルス感染症拡大を受け、外部講師を招聘して罹患者に対する差別問題を主体とした講演会を実施した。次年度も罹患者や濃厚接触者に対する理解度を向上させる取組を行いたい。
	④-1 いじめに関するホームルーム活動を行う。	④-1 人権に関するホームルーム活動のテーマとして取り上げた。			
	④-2 いじめに関するアンケートを実施する。	④-2 6月と12月に、学校生活における不安や人権問題などに関わるアンケートを行い、いじめの早期発見に努めた。			
	④-3 立哨指導や巡回を徹底し、生徒の状況を把握する。	④-3 生徒の登校時から4時間目終了時まで当番制により立哨指導を行い、生徒に声を掛けるとともに、生徒の状況を把握し、情報交換に努めた。			
	⑤-1 人権問題に関するホームルーム活動や講演会等の行事を系統的に行う。	⑤-1 人権ホームルーム活動や人権講演会、人権映画鑑賞会を系統的に行った。			⑦新型コロナの影響で、毎年実施してきたAED講習会を見送った。次年度は、状況が許す限り実施したいと考えている。
	⑤-2 人権問題に関するアンケートを実施する。	⑤-2 人権アンケートを講演会後に実施し、生徒の人権意識を把握した。			
	⑥ 効果的な防災訓練や避難訓練を実施する。	⑥ 停電時を想定し、安全を配慮した上で照明を消した状態で避難訓練を実施した。			⑧模擬投票などの体験型行事のみとせず、ホームルームや学校、地域社会への関心を高めることを通じて主権者意識の醸成をはかりたい。また、今後も社会の出来事への関心を高めるためICT教材を積極的に活用して授業を進めたい。
	⑦ 公民科を中心として各教科の授業や学校行事で主権者教育を実施する。	⑦ オンライン形式で主権者教育のワークショップと、選挙管理委員会の協力に対面形式による模擬投票等を含む主権者行事を実施し、主権者意識の醸成をはかった。			